

平成 27 年度

第 3 回 南伊豆町総合教育会議議事録

日 時	平成 27 年 8 月 26 日 (水)	13 時 30 分から 14 時 52 分
場 所	南伊豆町役場	3 階 会議室
出席者	町 長	梅 本 和 熙
	教 育 委 員 長	佐 藤 保 孝
	委員長職務代理者	白 井 善 吾
	教 育 長	小 澤 義 一
	委 員	井 手 伸 二
	委 員	久 保 田 藤 江
説明出席者	事 務 局 長	大 野 孝 行
	学 校 教 育 係 長	白 井 秀 治
	社 会 教 育 係 長	小 嶋 淑 子

1 開 会

大野事務局長 開会を宣言し、議長は町長が務める旨述べ、進行を議長に依頼する。

2 議 事

梅本議長 議事録署名人について、教育長及び議長が務めることを述べ、議事に入る。

議事（1）南伊豆町教育大綱について事務局の説明を求める。

事務局長

それでは、説明させていただきます。

皆さんのお手元に前回の会議で御協議いただき、修正した教育大綱を配付させていただいております。

こちらについては、会議開催通知とともに事前配付をさせていただき、御確認をお願いしておりました。

本日は、修正内容の確認及び今後のスケジュールについて御説明させていただきたいと思っております。

まず、最初に大綱の修正内容について説明いたします。

前回の会議の中で、修正箇所は次のとおりです。

南伊豆町の教育目標を「ふるさとを愛し、心豊かな学びを育む」の「学び」を「人」に変更。

3本柱の右側、「強い南伊豆っ子の育成」、これはそのまま。

3本柱の真ん中「誰もがいつでも学べる社会」、これは「生きがいをもって暮らせる毎日の創造」から全面改正。

3本柱の左側、「社会変化への対応」、これは「現代的課題への対応」から全面改正。

以上となります。

「平成27年度南伊豆町の教育」、「第5次南伊豆町総合計画」との整合も図られております。

また、今後のスケジュールについてですが、本日、協議が整いましたら、9月に議会へ報告、その後、公表する予定です。

以上で事務局からの説明を終わります。

梅本議長 　　ただいま、事務局から南伊豆町教育大綱の策定について説明がありました。御意見、御質問等があればお願いいたします。

　　語句の在り方とかがまずいのではないかと、そういう感じがあればここで御協議していただいて結構と思います。よろしいでしょうか。

事務局長 　　議長、補足説明いいですか。

梅本議長 　　どうぞ。

事務局長 　　追加説明をさせていただきます。

　　その次のページに詳細の部分がございましたよね。佐藤委員の方から家庭教育のことも入れた方がいいのではという御意見をいただきました。そこで、基本方針の2のところに「家庭教育の充実」というかたちで追加で入れさせていただきました。

　　以上です。

梅本議長 　　それでは、1点ずついきましょうか。3本柱の「強い南伊豆っ子の育成」というのは、これはこれで皆さんよろしいでしょうか。

《 全員了承 》

梅本議長 　　それでは次の「誰もがいつでも学べる社会」、これも決定したとおりでよろしいですか。

佐藤委員 　　前もって、資料をいただいて目を通したんですけど、2番のところで、地域住民で子供たちを見つめるというか、地域住民による声掛けであるとか、育成であるとか、そんな文言が入ったらいいのかなということ

ふと感じました。

梅本議長　　これは、具体的な基本方針ということですね。「誰もがいつでも学べる社会」というもの、これはこれでいいですね。

佐藤委員　　いいですね。中身がね・・・

梅本議長　　中身は次の段階にしましょう。
次の「社会変化への対応」これは皆さんどうでしょうか。

《 全員了承 》

梅本議長　　よろしければ、基本的な3本柱は、このかたちでやらせていただいて、あと、具体的に委員長から話のあった部分に入っていきたいと思えます。

まず、基本理念の「ふるさとを愛し、心豊かな人を育む」これも皆さん、御承認いただけたものとしまして、次に基本方針の「強い南伊豆っ子の育成」この中に7点ほど出ています。この項目について皆さんの御意見をいただきたいと思えます。

白井委員　　「縦の接続と横の連携で育む、交流教育の推進」これはどういう意味だろうか。

事務局長　　「南伊豆町の教育」から持ってきたもので、そこからの引用になります。

梅本議長　　「縦の接続と横の連携で育む、交流教育の推進」について説明させます。

事務局長　　これについては、県の教育方針か何かから持ってきていると思うんですけど、「生涯学習の考えの下、子どもから大人まで、人生のそれぞれの段階に応じた学びの場の充実を図る『縦の接続』と家庭、学校地域や職場の『横の連携』を推進することと記載されています。

梅本議長　　縦の接続というのは、世代間か。そして横の連携というのは地域と学校、家庭とかか。

では、その辺のところをもっと具体的にカッコでもして入れたらどうだろうか

今のままだと、白井委員が言われたように具体的にわかりにくいです

ね。

白井委員 今、説明があったからわかったけれど、説明がなかったらわからなかった。

梅本議長 私ははじめ、縦の接続というのが学校のこと言っているのかなと、横が地域かなと思っていたんです。

白井係長 この「南伊豆町の教育 概要版」だと縦の中には幼・小・中・高の交流も含まれていて、必ずしも世代間だけではない。幼と小とか世代は分かれていますけど・・・

梅本議長 「世代間」を入れることでどうでしょうか。

白井委員 町民みんなで見るような意味であれば世代間の方がいいね。

事務局長 では、「縦の接続（世代間）と横の連携（学校・教育・地域）で育む、交流教育の推進」というかたちでいきたいと思います。

梅本議長 他には何かありますでしょうか。
特別支援教育というのは何ですか。

小澤教育長 障害をもった子どもたち、知的な障害、情緒的な障害・・・現在、その子たちは特別に別の特別支援教育というかたちで普通学級から分かれてやっている教室があって、それを特別支援教育とっているんです。

梅本議長 これは、わかりますか。

白井委員 これは、我々は分かりやすい。学校訪問した時に実際に見ているから。

白井係長 その子の適正にあった授業を推進していくという・・・

梅本議長 それでは、これはそのままよろしいですか。
他には、教職員の資質向上への支援。教職員へはこんなことしなければいけないんですか。皆さん十分に資質を持っていると思いますが・・・

小澤教育長 限りなく資質は高めていかないと・・・

臼井委員 暗に指導主事のことを書いたのでは・・・

梅本議長 そうか・・・それでは、特にこの「強い南伊豆っ子の育成」の中には他に皆さんの中から御意見はございませんでしょうか。
なければ、そのようなかたちで決定してよろしいでしょうか。
先ほど修正した点を入れて・・・

《 全員了承 》

梅本議長 では、次に「誰もがいつでも学べる社会」に入りたいと思います。
7つの項目が出ていますが・・・先程、佐藤委員が言われたところは・・・

佐藤委員 2項目めで、「南伊豆町の将来を担う、青少年の健全育成」というのは、当たり前というか、載せる必要があるのかというところから、例えば、地域住民で健全育成とか、なんかそういうふうにした方がいいんじゃないかと感じたものですから・・・

梅本議長 どういうふうにしたらいいですか。地域住民による南伊豆町の将来を担う青少年の健全育成ですか。

佐藤委員 年寄りの力を借りたりとかね、そういうことも含められるような、或いは声掛けとか、交通指導とか色々なものがありますよね。

事務局長 地域で青少年を育成していきましょうという文言を入れたいということですよ。

佐藤委員 そういうことですね。地域住民で育成しようと。これは当たり前じゃないですか。「南伊豆町の将来を担う、青少年の健全育成」なんていうのは・・・そのために何とかしようということですよ。

梅本議長 言葉として、どこに入れればいいでしょうかね。一番前に入れてしまうか。

事務局長 ストレートに言ってしまうと、「地域住民による青少年の健全育成」とかそんなかたちになるのかなと。

佐藤委員 そう、そういう感じ。

梅本議長 「地域住民による青少年の健全育成」 どうでしょうか。

白井委員 地域住民の力が必要だろうか。健全育成に・・・

事務局長 それはさっき、佐藤委員が言ったように声掛け運動であるとか、交通指導とか色々・・・

久保田委員 前にいただいた紙（南伊豆町の教育（概要版））には「地域の教育力の向上」とそういう言葉がありました。
難しいでしょうか。

白井委員 将来を担うだね・・・青年は何やっているかといえば、結局は消防団だよ。そのようなものへの参加を促すみたいか感じ・・・地区でいうと祭りであるとか・・・ああいうものに若者は出ているんだと思うけど・・・

佐藤委員 私が感じたのは、南伊豆町の将来を担う青少年の健全育成のために、我々はこうやっているのではないかということだったわけで・・・そうすると当たり前のことを載せる必要があるのかということが1点です。このために青少年の健全育成のために試行錯誤していく、それが一つあるんじゃないかという・・・そこで地域住民と何らかのかかわりがあるのでそういう言葉を入れた方がいいのではないかと・・・

小澤教育長 ここにある7～8項目をみると、大きな意味での生涯学習、学校教育に対する社会教育が2番だと思うわけです。その中でジャンル分けがされているもので、この頃一番劣っているのが青少年健全育成、本当は組織をつくってやっていかなければならないものであるけれど、地域住民が入ったり、行政が入ったり、警察が入ったりしたものを・・・

白井委員 何かに参加というかたちではまずいのかな。

井手委員 ジャンル分けということでは、今の「南伊豆町の将来を担う、青少年の健全育成」でいいと思いますよ。それで、何ができるかという細かく分けていけば地域の住民のことも出てくるだろう、おおざっぱに分ければこれでもいいのかなと思うんですけどね。これだけで終わるのではなくて「南伊豆町の将来を担う、青少年の健全育成」とはということになって、どんどん別れていけばいろいろな問題も出てくるであろうし・・・だから、基本方針としてはこれでいいのではないかと思うんですけど・・・

梅本議長 難しくなってきましたね。
久保田委員どうですか。

久保田委員 そう言われれば、そのままでいいなとも思うんですね。

事務局長 この教育大綱の下には、南伊豆町の教育というものが更に細かい中であり
ますよというものなんですよね。南伊豆町の教育の21ページになります
けど、青少年の健全育成については、家庭、学校、職場、地域、その他
社会のあらゆる分野におけるすべての人たちがそれぞれの役割や責任を自
覚し、相互に協力しながら一体となって取り組むことが必要になりますと
いうことが謳ってはあります。

梅本議長 具体的に謳ってあるということか。

事務局長 ですから、詳細はこれを見てよというかたちになってしまうんですけ
ね。

臼井委員 それは当たり前のことではないだろうか。

事務局長 そうなんですけどね。それがここに書いてあるよということなんですよ
ね。地域でやっていくということはそういう感覚なのかなと。

臼井委員 そうだな。それで地域が成り立っているのだから。

事務局長 その中の一つで、青少年の健全育成もその一部としてやっていこうよと
いう感覚ですね。

久保田委員 前にいただいた、これ（南伊豆町の教育ダイジェスト版）がわかりやす
く書いてあります。

臼井委員 他のところに細かく書いてあればいいけどね。これ（教育大綱）はあ
くまでもキャッチフレーズみたいなものだから・・・

梅本議長 では、これはこれでよろしいでしょうか。「南伊豆町の将来を担う、青
少年の健全育成」ということで。

臼井委員 まだ、囁んで含めるようなものが出るわけでしょ。これで終わりなの、
一般には。

事務局長 教育大綱はこれで終わりです。

白井委員 他のページはないわけ。

事務局長 ないです。

梅本議長 説明する文書が出てくるわけでしょ。

事務局長 訊かれたときは、具体的にはどういうことなのといった時には、先ほど申し上げた「南伊豆町の教育」に載っているこういうことなんですよというかたちで説明をすると。

白井委員 訊かれた時にはということか。

梅本議長 「南伊豆町の教育」に載っているというふうだね。大綱ではなくてね。

事務局長 あくまでも大綱は分かりやすい部分での・・・先程白井委員が言ったようにお題目みたいなイメージできていますもので、詳細についてはこっち（南伊豆町の教育）の部分ですよ。

白井委員 訊かれた時には、キッチリ答えられると。

事務局長 当然、そういうことです。

白井委員 漠然としたものではないよと。

事務局長 そうです。具体的にはどういうことなのと言われた時には、南伊豆町の教育を説明するということです。

梅本議長 どうですか、佐藤委員、そのままでもよろしいでしょうか。

佐藤委員 今、南伊豆町の教育の概要版というものを見ているんですけどね、将来を担う青少年の健全育成ということになるんでしょうね。その3本柱が明るい家庭づくりの推進とか、地域の教育力の向上とか、心に残る成人式の開催とかそういうことが載っているんですが、そうすると「家庭教育の充実」とかそれもいらないのかなと、そこに載っているんだから、そうすると、この前私が言った「家庭教育の充実」も、こういう考え方でいえば、一本一本、下に書いてあるわけですね、そういう意味でいけば、そういうこともできるかなと感じたんですけど。

ここで、すべて書いてあるんだよね。私の意図していることはみんな入っているということです。

梅本議長　では、このかたちでよろしいということで、以降の項目については、これでよろしいでしょうか。

《 全員了承 》

梅本議長　では、「誰もがいつでも学べる社会」というのはこういうかたちでやらせていただくということで・・・

次に「社会変化への対応」ですけど、皆さんをお考えをお願いします。

臼井委員　最近のニュースを見ると、怖いのは「命を守る教育」ですよ。

梅本議長　そうですね。

井手委員　私は、どこに入るかがわからないんですが、町の人だけでなく、よそから入ってくる人のための、子どもたちにこういう教育があるよという、そういうやさしいものが入っているのもいいのかなと思いますが、そういうものは入れる必要はないですかね。

臼井委員　自然という言葉がどこかに入らないかなと思っていた。

小澤教育長　多文化共生社会、あるいは持続可能な社会、そして町が持っている自然の基盤、そのへんがうまくつながって大丈夫そうですね。

臼井委員　ウェルカム的なところを入れた方が・・・

井手委員　来てもらうためにやるんだから、そういう人たちのための何かがほしい。

小澤教育長　交流、体験・・・

臼井委員　自然体験とか、体験と言えば南伊豆では自然体験しかないものね。

事務局長　まあ結局同じなんですけど、「南伊豆町の教育」の中に、これ（教育大綱）の下の部分ですね、柱の下の部分に入っているんですよ。

井手委員　ただ、そういうことはやはり表に出たほうがわかりやすいと思いますけ

ど。

小澤教育長 　どこのページにありますか。

事務局長 　「強い南伊豆っ子の育成」のところの一番上の項目。

白井委員 　「生きる力」のところ？

事務局長 　はい。そこの項目の中に、「地域の自然や人々との交流の推進」という項目がありまして、そこに、「豊かな自然、あたたかな人柄が特徴の本町において、子どもたちが日々の生活の中で自然や子どもの成長を支える地域の方々と触れ合う中で、郷土への愛着が育まれるように交流活動を広げます。」というかたちで入っています。

白井委員 　ここは、就学前の子供たちのことをいっていると思っていた。

小澤教育長 　生きる力の基礎というのは義務教育全般です。ですからその前の基礎を養うのは就学前となります。

　　この中の、「地域の自然や人々との交流の推進」という項目があるということですよ。

白井委員 　そのあたりもカッコ書きで入れるぐらいでもいいのでは、1行だけではそのあたりまで想像できない。

小澤教育長 　次の段階まで下ろすと少しは見えてくる。細かくはなるんだけど・・・

白井委員 　「充実した就学前教育の推進」とは具体的になんなの？と言いたくなる感じがする。

佐藤委員 　だから、わからないけど「南伊豆町の教育」の中に入っているというのがたくさんあるわけ。この大綱の中にね。だから例えば概要版を読んでもらえばわかるんだけど、大綱だけではわからないとそういうところがあるんだよね。それで良しとするかどうかということなんだよね。大綱だからそれで良しとするかということなんだよね。中身は入っているんです。概要の中に全部・・・

白井委員 　それは聞かないとわからないわけですよ。

佐藤委員 重点だけをやっていくのか、今みたいに網羅的に出していくのかというところ。

白井委員 大綱だから、大きくていいのかもしれないけど、意味がつかめないのは、なんだこれはという話しになる。

佐藤委員 大綱だけを見たのではわからない。

事務局長 大綱の最後のところに、詳細な施策については「南伊豆町の教育」を参照のようなかたちではどうでしょうか。

白井委員 まあ、それも逃げの一手で・・・

佐藤委員 だから、そのかたちでいいのかどうかを判断していかないかね。

白井係長 これは大綱なので、前々回に総社市の「総社を愛する子ども」「心優しい子ども」「礼儀正しい子ども」この3本柱で全部読み取っているという解釈でいくならば、ここはインパクト重視で行くならばあまり書きすぎると、もとの厚いものになってしまうんですね。

佐藤委員 大まかでいいと。

白井委員 大綱だからね。そう言われればその通りだけれど、意味の分からないような大綱ではどうかということ。

白井係長 町の総合計画の具体的な施策は各予算書に繁榮されている〇〇予算ですとか、そういう位置づけでいくと、詳細なものが「南伊豆町の教育」になって、教育のバイブルであり、大きい柱がこれ（大綱）だと・・・町長が作ったんだいうので行けば、これでも細かすぎるのかなとも思います。総社市のものから見ると・・・

事務局長 結局2ページ目以降というのは、大綱の説明というかたちなんですよ。教育大綱はあくまでも1ページ目なんですよと。という方向で進められてきたと思います。大綱は簡単なものにしようという意見のもとにこれできた。ただ、これではわからないから参考資料として付けていこうかという基本方針のもとに作ってきたのかなと考えているんですけど・・・

白井委員 では、こっちは少しくらい文言が長くなったっていいということ。

事務局長　　まあ、そうですけど、そうするとまた、厚くなってしまうと・・・そして、さらに厚くなったものが「南伊豆町の教育」だと・・・とっかかりと
いうのかそんな感覚でいっているんですよ。

小澤教育長　この大綱、これは最終的には町長が作ってもらうかたちで、我々は委託
されているわけだけど、町長の思いというのは例えば2段目にある「ふる
さとを愛し、心豊かな人を育む」そういうかたちがいいか、町長として「ふ
るさとを愛し、心豊かな人づくり」といった体言止めにした方がいいの
か・・・

梅本議長　　育むでいいのでは。

佐藤委員　　大綱としては、「ふるさとを愛し、心豊かな人を育む」ですよ。だから、あとそれを具体化するためにどうするかという・・・今我々が考えて
いるのは、概要も含めて考えているんだよね。大綱としては、あんまり細
かいことは抜いてしまって構わないのかね。

事務局長　　私はそう思うんですけど。結局、それをやっていくと「南伊豆町の教育」
が教育大綱ですよとなってしまうんですよ。

臼井委員　　これは、町民に1冊づついくようなことになるの。

事務局長　　そこまでは考えていないです。ホームページ等に掲載はしますけど。

梅本議長　　社会変化への対応の中で「命を守る教育の推進」と「人権教育の推進」
は微妙にダブる。基本的人権の中にはいろいろなものがあるんだけど、
命を守る教育の推進だけでいいのではないか。本当の意味での基本的人権
まで含めてものを言っているのか・・・

小澤教育長　この人権教育の方は、諸々の人権を含めて言っています。命の方はいじ
め問題ですよ。子どものね、特定されますよね。

事務局長　　防災の部分も謳ってますよね。

小澤教育長　結局、命は3本柱あるから、交通安全、生活の安全、防災。

臼井委員　　この、各種団体との連携推進というのは・・・連携している、していな
い？

白井係長 高校とか、民間団体とか、東京大学とか・・・先日行ったサイエンス教室とか・・・湊の木下勇教授も千葉大でそういう意味では防災教育とか・・・

佐藤委員 なんか、ふりだしに戻ったみたいなんだけど、確かに大綱なんだから、特別細かいことはいらんのかもしれない。
柱ごとに、ちょっと思いを書けば・・・2～3行でまとめるとか、和光市のものはそうになっている。

小澤教育長 総社市の方は今言ったように、大綱はものすごいエッセンスになっているけれど、おそらくその土台に本町の「南伊豆町の教育」のような基本方針、細かく書いたもの、それが土台にしっかりあってエッセンスだけ大綱がボーンと出たと思うんですよ。それが総社市の特徴で、南伊豆町はそれでいくと、町の教育の細かいのが出ていますよと、それを一括したのがこういう言葉として、大綱としたので、それはそれとして本町の特色らしく出していけばいいのかなと、それぞれ地域として違うと思うものだから。

佐藤委員 「南伊豆町の教育」という立派なものがあるから、この中に網羅されているから全部。皆さんがこれでいいというのであればこれでいいし・・・

梅本議長 どうでしょうか皆さん、御意見の方は。

佐藤委員 町長の思いもあるだろうしね。

梅本議長 私は、皆さんの思いが反映されればもう十分です。

佐藤委員 何か言いたいことはありませんか。

梅本議長 私が言いたいのは、教育というのはなかなか難しいものだなと思ってます。ただ、よく東京大学というのが出てきますけど、この地域の教育というのが、なぜ学力的に落ちるんだろうということを考えた時、例えばある方の話しですけど、やはり北高と南高が一緒になったということは本当に良かったんだろうかという意見がそこですすでに出ているみたいです。あまりにも学力が広がりすぎてしまったという、そうでなくても下田北高という高校自体もはたして、この地域では学力的にはいい高校だという意見があっても実際、天城を超えた時どうだったのだろうということを考えた時はたしてこの地域のそういう意味での教育の在り方というのがどうも気になって仕方ないんです。それで、実際問題、優秀な子はいっぱいいると思うんです。ここの地域にも、例えば東京大学行くだけの資質をもった優秀

な子はいっぱいいると思います。そういう意味で何か学校教育の教科を教えるという部分で、だいたひ賀茂郡自体が相当遅れているという気はしています。それに対してそれは教育だけではなくていろいろな面でこの地域の遅れというのが出ていることは事実だなど、競争社会の中でいろいろなことを言っていく場合どうなんですかね。例えば学校を統合していけという意見の中には、競争社会へ対応していけというような意見がそこにはうんと強いものがあるんですね。そういいながら競争社会に対応できる地域になっているのかというとなっていない。非常にあいまいなかたちになっているという気もしますし。なかなか難しいなど、これはこの地域が教育にしても医療にしてもいろいろな意味で後進的な状況におかれているなど非常に気にはなります。行政をやるという意味においては気にはなります。ただ、それがそういうかたちがいいんだという意見もありますし、本当に難しいなと思っています。最終的に例えば私にもよくわからないんですが、人間の幸せというか幸福度というのか、ブータンの皇太子さんが来られた時に「ブータンは幸福度は世界一だ。」という意見があったし、そういうことを考えた時に教育の在り方というのはどのへ行けばいいのかというのは非常にある意味では「ふるさとを愛し心豊かな人を育む」というのはそういう意味でいうような幸福度が充実した教育みたいな感じもしますし、私自身がまだ自分で確信が持てない、やはりマネー資本主義の中で、やっぱりお金とかそういうところとちがう部門のところとがあって、ではあなた大丈夫なの、そんな田園回帰したところで生活できるのと言われたら、いやいやちょっと待てというような世界も出てきますし、もっと皆さんで教育というものをそういう意味で議論されてもいいのかなという気はしています。教科を教えるとかの基本的なことは別として、もっともっと専門的なものを教えていくだけでいいのかなという気がしています。

そしてですね、南伊豆分校みたいな専門化したかたちというの、子供たちに対してそういう意識付けというか、例えば単なる大学にいけばいいんだよ、4年制にいけばいいんだよという世界ではなくて自分になりたいところの方向性をもっと中学生くらいまでに教えてあげるとか判断させてあげるような教育になっていないのかなという気がしますね。それは、僕らの時代からずっとそうだという気がします。教育が大学を目指せ、それも東大を目指せみたいな、なるべくいい大学を目指せですね。そしていい給料もらえるところへ行けというようなそういう教育が果たしてよかったんだろうかという・・・そういうところを含めてもっともっと意識的にみんなですうではないんでしょというようなものの考え方が出ていいのかなと、例えば専門家というか職人というか、そういうところにもすばらしい人生があるし、さっき言った幸福度が満ちてるところがあるしというような、そういう教育が中学の先生たちが理科を教える時とか社会を教える時とか国語を教える時とか数学を教える時に2～3分べらべら

としゃべって・・・というような教育のやり方も先生たちにしてもらいたいなと、僕はそういう気がしています。ただ先生たちが今日は数学、はい○ページ、 $1 + 1 = \bigcirc$ とかのそういう教育ではなく、人生の幸せとは○○なんだよとかっていうことを2～3分しゃべってから、数学をやるとか、国語やろうねとか、そういう教育のあり方もあっていいのかなという気もしていますけど、それは教育長が教育方針の中でビシッと、教育委員長もそうですけど、先生たちに教えてというか指導していただければありがたいなという気がします。

佐藤委員 確かに、ふるさとを愛し心豊かな人間なんていったって、実際にはふるさとに帰ってこない子ども達がいるんだよね。それは確かに働くところもないというのものもあるし、今の話の中にもあった職人として匠っていうのかな、そういう徹底したものがないし・・・

梅本議長 働く場所というのは、本当にはないんだろうかということを考えると、これは非常に難しいんですけど、さっき言ったように、農業・漁業とかそれがお金という尺度に変えられちゃうとどうしても間尺に合わないなという社会になってきているというのも事実ですね。そんなことをやっているんだったらサラリーマンをやったほうがいい、学校の先生になったほうがいい、公務員になったほうがいいのか、そんな社会になっているというのも事実には事実ですね。

佐藤委員 専門高校、例えば南伊豆分校みたいな専門高校を自分が高校卒業してそれを活かす地域の仕事とかね・・・

梅本議長 そうですね。今回うれしいのは園芸保育士を主張した女の子がいたんですよ。その子が保育士の課程を終わって、そして自分は園芸保育士になるんだと、いわゆる園芸を活かした子どもの教育、幼児教育をするんだとこんな明確な意見を持った子どもが南伊豆分校の中で育っていると、すばらしいことだと思いますね。だから、そういう教育の在り方というのはすごいなと、その子を育てたのは紛れもなくこの地域の中学校、小学校だと思います。そこで先生たちがそういう考えを出来る子を育てたんだろうなと思いますので、教育長にお願いしたいのは、そういう自分自身が高校行った時にそういうふうに分かることを言える子、サラリーマンになるんだとか公務員になるんだとかではなくて、例えば僕はこういうかたちでこういうふうになりたい、そういうしっかりした意見を持った子どもたちを育ててもらえれば、ほんとにありがたいなという気がします。例えば100人のうち2人でも3人でも出てくればこの地域というのはもう1回蘇るのかなという気もしますけどね。

佐藤委員　　なかなか、中学生あたりで自分の進路を決めるというのは難しいんだよね。

梅本議長　　難しいですね。親が教えないと、いろいろなことを・・・そういう教えがなかったことも事実です。中学時代もそうです。だから先生たちも自分が経験した社会の中でこんな職業もあるよ、こんな珍しい職業もあるよという、そういう自分の人生の勉強すべき範囲の選択枝をもっともっと先生たちが教えるべきではないですかね。例えば保安大学校とか防衛大学校とか警察大学校というのものもあるし税務大学校というのものもあるしとか先生たちがそういう社会の多面的な部分をもっと子どもたちに教えて職業選択はいろいろなかたちがあるんだよと、そして自分にあったものを探させるという・・・

佐藤委員　　昔はあった。そういうものが・・・そういう冊子があって〇〇になるにはこういう資格が必要だとか1冊になっているものがあった。

梅本議長　　そういうところをもっと先生たちが日常の中でもっと子ども達に教えていってほしい。

佐藤委員　　それはやっていないな。

梅本議長　　それをお願いしたいんですよ。中学時代にそれを考える基礎を作らせて高校行ったら僕はこうなんだ、こういう方向へ行きたいんだと親に主張が出来るというか、よく親の職業を見て子どもたちは育つわけですけど・・・

佐藤委員　　高校を選択するについても、例えば下田北高行きたいと、下田北高は危ないと、じゃあ南高行きたいと、南高が危ないとそれでは分校に行こうと、そういう発想の子がすごく多いんだよね。

梅本議長　　昔は多かったですね。

佐藤委員　　今は知らないけどね。結局、自分が進路を決めて、この高校でなければならぬとそういうものがないわけ。

梅本議長　　本当はそれができてくると面白いですね。学校自体もよくなるでしょうし・・・中学でももっともっと受験勉強だけでなく、何のための受験勉強なのかをもっと教えるとか、先生たちが意識して議論してもらって・・・

できれば南伊豆の小中学校の先生たちにはそういう議論の場をぜひ作っていただければ・・・1回、教育委員の人たちと、僕も入れさせてもらって学校の先生たち全部来てもらってワーキンググループでもやってみたらどうですか。先生たちは何を考えているんだとか、どういう教育をしているんだとか、どんなものですか。教育長どうですか。先生たちはやってくれないですか。無理やりはあれですけど、こういうことに対して議論をしましょうとかいうのを年に2回くらいは教育委員の人たちはやられたほうがいいのではありませんか。もっと大きい意味での教育方針とかは教育委員の人たちが当然考えるべきですけど、それを今度は先生たちにある意味では浸透させなくてはいけないわけですよ。先生だけではなくて一般の人たちにもそうなんでしょうけれども。であるなら、教育委員会というものの存在価値というものをどういうふうに見つけていくかと言ったら、そういうかたちがあってもいいのではないですかね。多分、町民の人たちが教育委員さんと言って誰と誰と誰が教育委員さんと・・・

佐藤委員 知らないでしょ。

梅本議長 多分そうなんです。それではまずいでしょう。

佐藤委員 まずくはない。

梅本議長 僕はそう思っているんですよ。だから、そういう会合を年に最初は一度くらい、学校の先生たちを集めてワーキングを行うと・・・

佐藤委員 それは南伊豆町だけではなくて、どこの教育委員会も同じ。

梅本議長 そうでしょうけど、南伊豆町はちょっと毛色が変わったことをはじめたなと・・・教育委員長してくれませんか。そういうことをやられる中で、教育委員会の議論というか在り方というのももうちょっと深まるのではないかといろいろな意味で・・・先生たちの現場の声を聞くということは教育委員の人たちにも必要なことではないかなと・・・まあ保育士さんたちを集めても当然いいことですし、保育士さんたちは保育士さんたちで、あなたたちは教育をどうしたらいいのという部分のところで、それで小学校の先生、中学校の先生というかたちで何回かそういう会合をもたれてみるのもどうですか。もし、みなさんがいいということであれば、事務局長がすぐセッティングを用意してくれるのではないかと思います。教育長と話をして・・・どうでしょうか、皆さん。

臼井委員 現場の声は一度も聞いたことがないからね。先程の話の中の、一番最初

の職業の選択、それに向かって高校が自然と決まってくるだろうというかたちがあるだろうと。今は職種の数比べらば多いだろうと、我々が子どものときの何百倍になっているだろうと、そういうのを教える先生側もそんなには詳しく知らないであろうと自分も一生懸命教員になろうと思って勉強してきたんだから。

梅本議長 だから、大勢の人で議論していく中でそういうこともどんどんどんどん出てくるし・・・

白井委員 そういうものを調べていくうちにこの地域にはこういう職業が合うんじゃないかというようなものを先生が見つけて子どもたちにアドバイスしてあげてね、分校行って農業を本格的にやって果物栽培をやろう米ではもうだめだ果物栽培で行こうとか、それであの果物とこの果物は南伊豆で育ちそうだから3種類やってみようだとかそんな感じで生活が出来るようなかたちが取ればね・・・

梅本議長 白井さん、私が考えているのは、相当さきの話になるんですが、南伊豆分校を農業高校だけではなくて、そこに介護とかそういうものの科が入らないだろうかと、そういう運動を皆さんで行きたいなと県知事に頼んで、ものすごく興味を持っています。南伊豆分校に対して・・・そして賀茂郡のこちら側ではそういう専門高校が農業高校しかないんですよ。だから子どもたちの選択肢というのは松崎高校であり稲取高校であり下田高校で普通高校ばかりだと。そうするとそこに農業もあり、介護もありという専門高校みたいなものがここに出来てしまうと、ものすごく選択肢が広がってくるしおもしろいし、そのための運動を皆さんで徐々に徐々にして行きたいなという気はしています。これは夢みたいな話で実際出来るかどうか、県がそういうことを認めるかどうか、ただ、現実の問題とすると天城のこちら側というのはすごく閉鎖された社会です。天城の向こうへ行ってしまうと、いろいろな学校があるしいろいろな選択肢が子どもたちにもあろうかと思いますが、どうしても天城のこちら側は向こうへ行かないと選択肢ができない部分が非常に多いもので、そういうところも広げていきたいし、そういうことを含めて学校の先生たちと話をしていくという、まずはじめに南伊豆町だけで行くなれば保育士さんと皆さんが話をして今からの保育園の在り方とか、まあ保育士もだいぶ少ないんだよね。不足している部分とかも含めながら議論をしてもらって、どういうふうにしていったらいいのかとか、そして次に小学校のこともそうでしょうし、そして中学のこともそうでしょうし、皆さんで議論を深めていってもらえば本当の意味での教育委員会になっていく、なっていってもらえるのではないかと、今の教育委員会がダメだとかそんな話ではなくて・・・どんなものでしょうか、皆さんのほうでそんなかたちがあるのであれば事務

局長がセッティングをするそうでございますから・・・

臼井委員 中学生くらいのころに、いろいろな職種を教えて地元に残りそうな職種を教育すると1人や2人は残るのではないかという気もするが・・・

梅本議長 1人2人でいいんですよ。全員が残れという訳にもいかないし、全員を食べさせることもできないでしょうし、いろいろな意味で、その林業なんかもだいぶ盛んになってきています。町内業者さんなんかにもよそから来ているんですよ。若手が。農業だけではなくて介護、林業とかも分校でやれば、町内業者さんなんかにも職場があろうかと。職場の改善というのはまだまだ行われなくてはならないでしょうけど、だからそういうことを含めてもっともっと町をあれしていく必要もあろうかなと思いますけど、どんなものでしょうか。セッティングするとなると年末くらいに1回くらい保育士さんたちくらい集めて、教育委員の皆さんと話をすると。

事務局長 年内には十分やろうと思えば・・・

梅本議長 その場合は多分、夕方になろうと思います。6時ころから8時ころまで、先生たちだから・・・

佐藤委員 それはもうちょっと考えさせてもらって・・・

事務局長 それはまた、教育委員会の中でまた・・・

梅本議長 教育委員会の中で議論してもらえないですか。そしてぜひやっていただければおもしろいひとつのかたちができるのかなと教育というものに対する・・・

それでは、いま委員長にそういうことをお願いして、教育大綱に関しましてはこういうかたちで取りまとめさせていただいたということで皆さんよろしいでしょうか。御承認いただいて、ではそういうことで、もう一度確認します。

事務局長 確認させていただきます。1ページ目は訂正なし。2ページ目は、縦の接続（世代間）と横の連携（学校・家庭・地域）で育む交流教育の推進に変更すること。

以上でございます。

梅本議長 それでは、あとは事務局のほうで取りまとめをさせていただきます。他に御意見がなければ総合教育会議のほうは閉めさせていただきます。本日

はどうぞも御苦勞様でございました。ありがとうございました。

事務局長 次回の会議は、次年度の予算編成時期にあわせて開催させていただいて11月か12月に予定しています。では、以上で総合教育会議を終了させていただきます。お疲れ様でした。

記事録署名人 梅本和照

記事録署名人 小澤義一

記事録署名人 大野孝行